



とねっと協議会だより VOL.23

【参加施設数】152施設（中核施設12、病院・診療所79、歯科医療機関9、調剤薬局41、検査施設6、圏域外医療機関5）

【参加住民数】35,484人（うち圏域外住民47人） *8月31日現在

発行日／ 令和4年10月7日 発行／ 埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会事務局
電話番号／ 0480 (63) 0003 FAX／ 0480 (63) 0033 URL／ <http://www.saitama-tonet.jp>

令和4年9月7日(水)に第11期通常総会を開催しました。総会では3項目の報告とともに、次の3項目の議題について協議が行われました。

協議事項

1 令和3年度事業報告及び収支決算(案)について

令和3年度の財務活動状況や各種取組などをまとめた事業報告と協議会の運営に係る収支決算が承認されました。

【収支の状況】

○決算額：10,927千円
（前年度：11,649千円 722千円減）
事業活動収入 13,500,586円
事業活動支出 10,927,642円
当期収支差額 2,572,944円
前期繰越収支差額 3,809,877円
次期繰越収支差額 6,382,821円

2 「とねっと」の今後の方向性(案)について

令和5年度からのシステムの延長・更新に向け、これまで県や構成市町等との協議や、4月に実施したアンケート調査結果を踏まえ、今後のシステムの方向性を協議しました。

【主な課題】

- 利根保健医療圏（7市2町）の一体化の維持
 - ・退会団体がある場合の「とねっと」の継続の可否
- 令和5年度以降の財源確保
 - ・国・県の補助金の確保（更新費用）
 - ・構成市町の負担金の確保（システム利用料等）

【埼玉県医療整備課の見解】

とねっとはICTを使い、医療資源の少ないこの利根保健医療圏で質の高い医療の実現を目的にスタートしました。例えば、いずれかの市町が退会したとしても、継続市町がその目的を達成できるのであれば補助対象にしてもよろしいかと考えます。

ただし、協議会が主体で、誰がどういう役割を担って目的を達成していくのか、その実現性が重要になってくると思います。

3 埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会規程の一部を改正する規程(案)について

当協議会委員の事業実施者のうち、2医療機関に名称の変更がありましたので、その協議会規程の改正が承認されました。

社会福祉法人恩賜財団埼玉県済生会栗橋病院
→社会福祉法人恩賜財団埼玉県済生会加須病院
埼玉県医療生活協同組合羽生総合病院
→医療法人徳洲会羽生総合病院

◆◆◆お知らせ◆◆◆

●とねっとカードの「紐付け」をお願いします。

患者情報の登録・参照には、各医療機関で患者様のカードIDを「とねっと」に登録していただく必要があります。

協議会事務局による「紐付け」作業の代行も行っておりますので、ぜひ、ご利用ください。

●令和4年度分の協議会への負担金の納入をお願いします。

各医療機関の皆様にご連絡させていただきますので、ご協力をお願いします。なお、口座振替も可能ですので、ぜひ、ご活用願います。

【負担金額】

・中核施設	年額	50,000円
・病院	年額	20,000円
・診療所	年額	10,000円
・歯科	年額	10,000円
・調剤薬局	年額	10,000円
・圏域外病院	年額	20,000円

※裏面に、「とねっと」システムの主な活用状況を掲載しております。

「とねっと」システムの主な活用状況（令和4年4月～令和4年8月まで）

1 医療機関での参照件数（病院・診療所の所在地別）

① 病院・診療所・調剤薬局 → 中核病院 83件

（内訳）加須市6件、久喜市1件、幸手市60件、杉戸町16件

○活用内容…中核病院で「とねっと」に登録された病名・検査結果・画像・処方の情報を病院・診療所・調剤薬局が参照

② 中核病院 → 病院・診療所・調剤薬局 21件

（内訳）加須市6件、久喜市2件、幸手市3件、宮代町4件、杉戸町6件

○活用内容…病院・診療所が検査施設を通じて「とねっと」に登録した検査結果、調剤薬局が登録した調剤情報を中核病院が参照

③ 中核病院 → 中核病院 58件

（内訳）加須市5件、久喜市17件、蓮田市2件、幸手市34件

○活用内容…中核病院で「とねっと」に登録された病名・検査結果・画像・処方の情報を中核病院が参照

④ 病院・診療所・調剤薬局 → 病院・診療所・調剤薬局 47件

（内訳）加須市6件、久喜市1件、幸手市35件、杉戸町5件

○活用内容…病院・診療所が検査施設を通じて「とねっと」に登録した検査結果、調剤薬局が登録した調剤情報を病院・診療所・調剤薬局が参照

2 救急システム延べ使用回数：568回（医療機関19回、タブレット549回）

3 健康記録延べ使用回数：3,743回

○活用内容…スマホの「とねっと」健康記録アプリなどにより、歩数、体重、血圧等の入力・時系列参照や検査値、処方、調剤情報の入力（中核病院や調剤薬局は自動登録）・時系列参照等による自身の健康管理に活用

4 救急端末参照システムの使用状況（平成24年7月～令和4年8月まで）

「とねっと」参加患者の搬送人数 4,289人

うち、3,960件の搬送において、情報参照及び医師への申し送り等に効果

（内訳）行田市2人、加須市1,873人、羽生市9人、久喜市470人、幸手市372人、白岡市43人、宮代町419人、杉戸町772人

■救急タブレットの活用事例（消防からの情報提供）

日時	令和4年8月2日	曜日	火曜日	種別	急病	搬送先病院	済生会加須病院
傷病者情報	年齢	性別	傷病名		程度		
	81	男	間質性肺炎		中等症		
概要	発熱および呼吸苦のため救急要請。						
使用状況	意識障害がみられ、本人からの情報聴取が困難であった。とねっと検索を行ったところ加入者だったため、病歴やかかりつけ医療機関および緊急連絡先等が判明。かかりつけ医療機関へ搬送し、家族へも連絡することができた。						

5 連携パス機能の活用状況（令和4年8月末現在／東埼玉総合病院）

① 循環型連携パスの適用患者数 383人

（内訳）適用患者の所在市町村別内訳

加須市6人、羽生市1人、久喜市28人、蓮田市1人、幸手市75人、白岡市5人、宮代町97人、杉戸町169人、春日部市1人

⇒ 病院・診療所間との連携により、患者の検査実施状況のチェックや異常値の把握などにも活用

② 連携パスを用いた連携施設数 36施設

（内訳）連携施設の所在市町村別内訳

加須市3、久喜10、蓮田2、幸手11、宮代3 杉戸7